

# 社会科

## 【研究主題】

今を語り、明日を創る生徒の育成

## 【研究副主題】

現代社会を俯瞰し、学びをつなげる学習の展開

## 公開授業

学級：2年3組 授業者：中本雄太



## 近代の日本と世界～明治時代は明るい時代だったといえるのか？～

私は歴史的分野の学習において、生徒に学習の見通しを持たせることの難しさを感じてきました。ここでいう「見通し」とは、これから学習する事象の確認だけではなく、**どのように学ぶのか、何を学ぶ必要があるのか**、等も含んでいます。同様の悩みを抱える先生方は、少なくないのではないのでしょうか。

そこで、“**時代を大観し、学習の見通しを持たせる授業**”を御提案いたします。

単元を貫く問いとして「明治時代はどのような時代だったといえるのか」を設定し、明治時代中期の立憲国家成立期までの中間評価を行います。その評価基準として、「明治時代は明るかったか、暗かったか」を置き、総合的に判断させることを通して、明治時代を大観させる一助とします。

終末には、明治時代を「明るい」、「暗い」と判断した際に根拠としたポイントを整理し、これからの学習で何を学ぶ必要があるかを明らかにさせることで、学習の見通しを持たせたいと考えています。本校生徒が、学習の見通しを持ち、次時以降の学習に意欲を高めている姿を御覧いただければと思います。

## メタ認知との関わり

これまでの学習を振り返ったり、単元を貫く問いを追究するために必要な情報や学び方を考えさせたりすることで、メタ認知を働かせることに主眼を置きます。

「明るい」、「暗い」という対立構図で意見を示すことで、自他の考えを比較させ、多面的・多角的に考察、分析する一助とし、生徒の**自己内対話**を促します。学習の見通しを持たせることで、次時以降活用できる**メタ認知的知識の更新**を図ります。

詳細はこちら

長崎大学教育学部附属中学校教育研究協議会

令和6年1月26日（金） 9:00 ～ 16:15

